

第67弾となる今回の経済雑感、日本銀行青森支店の武藤支店長にご寄稿いただいた。

経済雑感

第二三六回

日本銀行青森支店

支店長 武藤 一郎

昨年6月に青森に赴任して以来、夏・秋・冬を経験し、現在、青森の春を初めて経験中である。厳しい冬を体験した後の春は格別と感じる。

毎年のように公表されるものの一つに、都道府県の幸福度ランキングなるものがある。幸福かどうかは個人の主観を含むため、その程度を比較するのは難しいはずだが、あえてそこを把握しようとする大胆な取り

組みだと思ふ。幾つかの指標を見たが、いずれにおいても、青森県は下から数えて数番目とかなり低めである。その理由の一つには、経済的豊かさの観点が挙げられていて、たしかに、平均所得などの尺度でみれば、当県が全国対比、厳しい状況にあるのは否めない。

もともと、幸福度は必ずしも経済的豊かさのみで決まるとは限らない。実際、自分に限って言えば、東京から青森に赴任して、むしろ改善したと思うところが沢山ある。例えば、どこに行っても駐車場が広いなど、広々とした空間で、ゆったりとした気持ちでいられる。東京のように



日本銀行 青森支店 支店長 武藤 一郎 氏

常に混雑しているという状況には遭遇しない。また、四季が明瞭で、季節に応じた見所が随所にあり、日本に住む醍醐味を感じられる。そして、自然は素晴らしい。青森に来て週末にドライブするのが趣味

になったが、県内各地に行く際の景色を見るだけでも「目の保養」ないし「心の洗濯」になる。食べ物も美味しい。新鮮な魚介類、野菜、肉類、お米、りんごなど、当地の食材は魅力に富んでいる。日本酒も大変に美味しい。そして最後になってしまっ

そのように考えると、これ以上に必要なものは何だろうか？とすら思えてくる。たしかに、都市部から離れている不便さはあるが、それもインターネット・スマホの発達で、随分軽減されている。

このように、僅か1名のサンプルではあるが、少なくとも自分は当地で幸福を感じている。やはり幸福かどうかは個人の主観なのかもしれない。他県にも良いところがあるかもしれないが、青森県の良さは確実に存在する。経済面での課題は確かにあるとしても、それだけでは測れない青森の良さに気づくことも大切と感じられる。青森の良さがより多くの人々に理解されることを願っている。

(つづく)